



秋の祭典行わる

文化祭表彰

演劇

中学アカデミー賞 M3
グランプリ M3・H1

合唱

中学最優秀賞 M3D
高校最優秀賞 HIII E

展示

最優秀賞 生物部
優秀賞 地理部
優秀賞 天文部

第47回文化祭

第47回文化祭は、9月18日、20日の3日間の日程を無事に終え、その幕を閉じた。今年はユニークな「R ACTIVE」というスロガンから始まった。六月から夏休みをはさんで当日まで、関係者全員が頑張った結果が、きつこの三日間にあらわれたことだろう。

・演劇

今年のグランプリは中3高1の同時受賞という珍しい結果となった。これはどちらか甲乙つけがたい優秀な演劇であったというところだろう。ただ残念なのは、高1演劇が昨年に比べてあきらかに弱くなったことだ。44期、45期生が、高校演劇を盛り上げることを期待したい。

中3の劇は、広島への原子爆弾投下を題材とした自作劇だった。脚本も分り易く、照明・効果もよかつたが、キャストの演技がい

・合唱

今年の高校合唱は例年どおり、たいへんレベルの高生の活躍は、受賞した6クラスの内で5クラスが高3であったという結果をみては優秀な成績を収めたが、今年はずば抜けていた秀秀を受賞した高III Eは、クラス全員が一つにまとまり、表現、ハーモニーなど形式はいいと思う。こうい

・展示

今年の受賞団体の上位は生物部、地理部、天文部となった。確かにこれらのクラブの内容は良かった。だがあまりにもこの顔ぶれが続くのではおもしろくない。他の団体の一層の奮起を期待したい。ところで、やや主観的な意見になるが、書道同好会の様な、来た人間が実際に体験できるという形式はいいと思う。こうい



発行
洛星新聞局
(463) 3281(代)
印刷/有片桐軽印刷

〈紙面紹介〉

- 文化祭
- 体育祭
- 中一生アンケート
- 岸根先生ご帰国
- 中三研修旅行体験記
- 高二研修旅行
- W杯体験記
- 青木先生インタビュー
- Who's this?

体育祭成績

高 校		中 学	
優勝 D	814点	優勝 B	617点
2位 F	801点	2位 C	603点
3位 E	712点	3位 D	551点
4位 C	709点	4位 A	548点
5位 B	687点	応援	
6位 A	658点	優勝 E	



体 育 祭

去る十月一日、第四十七回体育祭が、ややずつとした天気のなか開催された。アトラクションは、毎年毎年同じサッカーネタなど、退屈で発想に乏しいものがあつた。しかし、Aクラスの「アントニオ猪木」やBクラスの「ピカチュウ」など、分りやすく面白く、力だと思ふ人も、少なからずいた。

副校長が「マグワイアが弱々しく、良くなかった」とおっしゃったように、元来応援が目的であるから、もともと力強いものが適当である。ただ、体育祭を勝敗だけで考えないならば、そのユニークさやかわいさが魅力だと思ふ人も、少なからずいた。

競技では、中学はBクラス、高校はDクラスの優勝となった。中学は、前半首位を走っていたAクラスが最終的には最下位だったなど、盛り上がりつつ、しかし、内容の固定化や、文化祭の直後ということもあって、全体的に盛り上がりにつけて、そのため、グラウンド南側でボール遊びをする人などが目撃された。

来年こそは、体育祭が、他人まかせにせず積極的な体育祭に参加し、よりエキサイティングなものにしていくことが必要だろう。



・模擬店

今回は出店希望団体が多かったために、事前に抽選が行なわれ、十四の団体が出店するという結果となった。校内では、食券を購入する際に混雑が起つたが、

それでも当日は変わらぬ盛り上がりであった。特に目を引いたのは、前評判通りの「近藤軒」であった。同じ焼きそばを扱う店がもう一軒あつたにも関わらず、常に長蛇の列ができる人気ぶりであった。賞を受賞したのも納得である。

・FMラジオ
昨年から行なわれたこの試みは当日も含めてハズニングが続いたが、何とか成功の域まで持ってこられたようだ。昨年と比べると音楽番組が増えた印象を受けた。普通、音楽番組は自然と耳に入るものだから、来年は地学教室から出るのが目標だろう。それと、ラウソジ内で番組を聞かず遊んでいる者がいるのは残念だ。

「祭」であることを自覚し、他人まかせにせず積極的な体育祭に参加し、よりエキサイティングなものにしていくことが必要だろう。

衣 笠

先日、保険金詐欺事件に関連して二人が容疑者として逮捕された。この事件は和歌山の毒物混入事件と関係があるとされているため、大きな注目を浴びている。▼こういった話題の事件は、マスコミ、特にTVや週刊誌等によって盛んに報道が行なわれるものである。こうなると、必要以上に取材を行なったり、わずかな事実から勝手な結論を導こうとしたりする。その結果、誤った報道が為されるのである。やや昔の話になるが、皆さんは松本サリシ事件を覚えていらっしゃるだろうか。あの事件は、近辺の無実である住民がマスコミの間であつたか犯人であるかの様に報道されるという、信じられない不評事となった。もちろん、こういった話は他にも数多く存在する。▼今回の事件も、こういったことに気を配っているかといえ、あまりそうは感じられない。

「取材は控えて下さい」という被害者を始めとする住民の方々の切実な願いの前で、「住民のいらだちはピークに達している」などといった取材を行なう無神経さはいったいどうしたものか。社会的影響の大きな事件はもちろん我々も知りたいのだから報道は行なわれるべきだろう。しかし、だからといって、関係者が虐げられて良いはずがない。こういったことは、どこかで一線を引かねばならないはずの問題である。現在のそれは、記者の理性と判断で決まることが多いのだから、それだけで十分である。同時にこれは我々にも注意が必要だということだ。なにか情報を得たのなら、それを鵜呑みにするのではなく、じっくりと調べてそれが信用に足るものであるのかを判断することが大切だろう。

理由 (Reason)	割合 (Percentage)
よい (Good)	33%
メニュー不足 (Menu shortage)	24%
高い (Expensive)	19%
その他 (Others)	18%
(Unlabeled)	6%

①現在の洛星のイメージ
まず、前回のベスト3であつた「勉強好き・真面目・厳しい」の3つがほぼ消滅（トップであつた「勉強好き」などは完全に消えてしまった）、代わりに「自由・明るい」といった項目が上位に入つた。その他の項目に入つた意見の大半もブラスのイメージを持った意見であつた。ところで、これほどの質問の結果においても言えることだが、その他の項目の割合が高くなつてゐる。これはつまり、統一された見解が少ないのが一番の原因だと思ふ。そこで、個性的な少数意見をいくつか紹介しておく。

（以降もこの形で紹介する）

- 賢い人とそうでない人の差が大きい
- 高学年になるにつれ悪いイメージがある
- 女性職員を増やして欲しい

②洛星の先輩の印象
前回のトップであつた

- 個性のある人が多い
- スケベ
- えらそう

はなかった。ただ挙げるとするならば、前回よりも良さが具体的になった点であろうか。

● 兼部ができる ● エアコンがある ● 校長先生 ● ウォータークーラーがある ● 警報がでたら休校になる

④食堂のメニューについて
「よい」の項目がトップとなった。がしかし、これは全てそうであるとは限らない。それは、あまり食堂にいかない人による「不満なし」の票も含まれるからだ（中には正直に「分からぬ」と答えた人もいたが）。その結果、前回とはほぼ逆転してしまつたのである。もつとも、質問の形式からいへば不満しかでてこないのはむしろ当然で、全体的に見ればよいと答える人もかなりいるのだらう。とりあえず、様々な意見があつて集計する者としてはつらいながらも楽しかつた。

●○○をメニューに加えて欲しい（ピザ、混ぜご飯、すうどん、スパゲティ、そば、肉まん、お好み焼き等々……） ●みそが甘い ●野菜が少ない ●サービスランチはいい（案外多かった） ●お茶があつた

今年九月に、数学科の岸根誠先生が約一年間のフランス留学を終えて、洛星に帰ってこられました。岸根先生に、フランスでの生活などをお尋ねしました。

——まず、フランスへ留学された動機は。

「とにかく行ってみたかったから。なぜ行ってみたかったかと言ふと、以前から、『自己』と『他者』の境界線とは何だろかと思つていて、日本人とフランス人との違いを知りたかつたから。数学の中の区別という分野に疑問を持つており、それについて深く考えてみたいと思つていたし、フランスは分析ということで、いろんな尺度を持つて物事を見ていく国であると思つたから。」

— どのようなことをされましたか。成果はどうでしたか。

「文法の表現が厳しく分類されていて、フランスらしいと感じた。授業形式に創造性と具体性というフランス文化の性格があらわれていると思った。」

「デイスカッション・作文・演劇の三つから成っていた。デイスカッションでは様々

な国の、いろいろな年代の人の考え方がわかった。だが、ここで、『一般化してはならない』と思ひ知らされた。『一般化』とは、フランス人といえばこうだとか、アメリカ人といえばこうだとか、決めつけること。フランス人といってもいろんな人がいるし、いろんな考え方があるということを、予知った。最初のうちは、予

備知識をくつがえされるようなことが多くて、驚かされた。作文では、きちんとした接続詞を使い決まった書式で書くことが必要だった。そうしないと、相手は判断の基準が持てず、他と比較したりにくい。また、どっちつかずの灰色の意見もダメだった。白か黒、

「文化」の授業では、失業問題や、それに絡む人種差別（ドレフュス事件など）といったものがテーマであった。フランスでは、第一次世界大戦後、労働力不足で多くの移民を受け入れた。しかし、今フランスでは失業率が非常に高く、多くのデモが起っている。その

中で、アフリカ（アルジェリア）からの移民が、元来フランスに住んでいた人（フランスでは、フランスに住んでいる人を全て、フランス人と呼ぶ）から職を奪っていると唱える過激な政党が力を強めている。人種差別・偏見については、自由・平等・博愛を掲げるフランスも例外ではないことを知った。」

「毎週金曜日に、担当音（女性）に連れられてレンヌ市内の住宅を見学した。まず、担当官に『この家を見てどう思うか』と聞かれ、学生たちが意見を述べるといふ形式だった。また、城や教会などとも見た。15〜16世紀

が、ルネッサンス以降は、横に広がった建物が多くなっていた。教会建築においても、古い時代の教会から現在に残る大聖堂まで発展の様子がよく分かった。石組みのアーチや柱のつくりや、大聖堂で大きな窓を作るかわりに、壁を支える支柱を作ったりすることなどは、とても興味深かった。」

「映像に残ったことは。」

「時間の使い方ですね。学生だったからかも知れないけれど、時間がゆったり流れている気がした。特に、土・日が、ウィークエンドで安息日という感じだった。また、やはり食事を楽しむという感覚は、日本より発達していた。昼食に二

「これはちよつとデリケートな會問ですね……。以前アメリカに行つていたときに『リ・エントリー・シヨック』というものを聞いたけれど、それには、『自分の見てきたものを相手に積極的に伝えようとするけれども、相手はあまり関心がない。そこで落ち込んでしまふ』とあつた。僕も、作文の授業なんか

は、面白いと思つたので、中
三生に教えようとしたが、い
い反応がなかつたので、や
めてしまった。もし興味の
ある人がいたら、是非開き
に来てほしいですね。」

——有難うございました。

最後になりましたが、ご
多忙の中を一時間以上も

貴重な体験をお話下さった岸根先生に、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

局員募集

洛星新聞は今回の発行で百五十九回目をむかえました。これからもさらに頑張っていくつもりではありません。

① フェノミナン
 ② 戦火の勇氣
 ③ 天空の城ラピュタ
 ④ フェイスOFF
 ⑤ ザ・ロック

人手が足りていません。今回に限っていうと、わずかに三、四人しか関わっていないというのが現状です。

そこで、紙面の一部を使いまして、改めて新人局員を募集させて頂きます。文章力の有無は全く問いません。また、投稿や調査以来（何かにについて調べて欲しい等）も募集しています。

その他、聞きたいことなどあれば、新聞局員または食堂上高校生徒会室横の新聞局室までお気軽にどうぞ。

'98 中高研修旅行

北海道編

まずは行程を確認。

一日目 京都駅→大阪空港
新千歳空港→富良野→日高
二日目 日勝峠→然別湖(泊)
三日目 知床五湖→ウトロ(知床五湖)→網走監獄(泊)
四日目 網走監獄→網走湖(泊)
五日目 網走湖→網走監獄(泊)
六日目 網走監獄→網走湖(泊)
七日目 網走湖→網走監獄(泊)

その後泊地の然別湖畔へ。周囲が十六キロに及ぶ然別湖は自然保護のためほとんど開発されていない。エゾマツ、トドマツなど原生林に囲まれ、北欧のようなたたずまいを見ている。

六月二十九日(月) 今日、網走から札幌へひた走る。観光ポイントも少なく、疲れた出発のこともあって、毎年眠り込む人が多くなる。十一時頃、峠を越えて石狩地方へ入る。まもなく巨大な崖から数

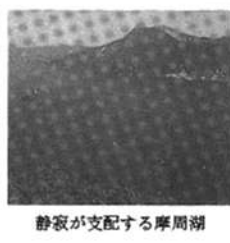
このコーナーでは写真を追って、北海道研修旅行を振り返ります。

写真で振り返る北海道

このコーナーでは写真を追って、北海道研修旅行を振り返ります。



北の雪国が漂う然別湖



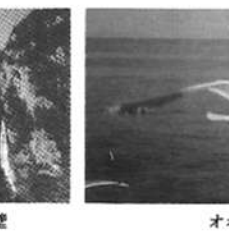
静寂を支配する摩周湖



静寂を支配する摩周湖



静寂を支配する摩周湖



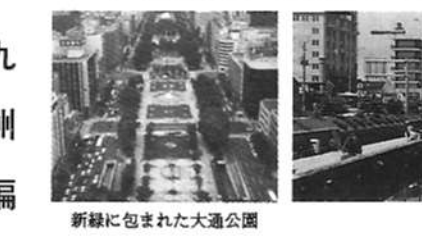
静寂を支配する摩周湖



静寂を支配する摩周湖



歴史を物語る小樽運河



新緑に包まれた大通公園

九州編

去る九月二日から九月五日にかけて、総勢一九九名が参加して中三九州研修旅行が実施された。日頃の行いは関係ないだろうが、今年はずいぶん晴天に恵まれた。日程には一部変更があったが、それはおいおい書いていくとして、まずは九月二日の京都駅から話を始めよう。

博多着。のぞみの速さを実感した。長崎行きかめ一三号に乗換えすぐ出発。昼食が配られると、後はお決まりのトランプとなる。午

その後は各班で思い思いに楽しんだ。ただ予定を立てずに、無為に歩き回って過ごしてしまっただけも少なからず見られたのが残念だ。予定は綿密に立てておくに限る(後編へ)。

四時集合。バスを飛ばして一路雲仙へ。今回は雲仙観光ホテルに宿泊。一歩足を踏み入れると、そこは一九三〇年代の開業当初と寸分違わぬ空間が広がっている。



雲仙は戦前から避暑地として外国にも知られていた。インドの詩人タゴールは、近くの九州ホテルに滞在したという。もしかするとお茶でも飲みながら観光ホテルにも立ち寄ったのだから、思いを馳せるのもまた楽しい。ちなみに九州ホテルは雲仙の地獄巡りの帰りに見ることができた。しかし高層建築に生まれ変わったおりに、往時をしのぶというわけにはいかなかった。

展望台から雄大な平成新山を仰ぐ。四十三名の命を奪った七年前の大噴火で誕生したのだ。一方、下界には広大な島原半島が広がっている。島原では武家屋敷を見学。石垣と青空のコントラストが絶妙だ。続いて島原城へ。天守閣の中は無性に暑く、汗が吹き出す。見学後は自販機に直行という人も多い。

昼食後のフリーで有明海へ。ただ船室のガラスが色着きで、海の青さが実感できない。外へ出ようかとも思うが三十二度ともなると足が遠のく。残念。熊本は九州第三の都市だけあって、さすがにという程でもないがにぎやかだ。熊本城では時間を気にしつつ駆足で回った。外堀の芝生の美しさが目に焼きつく。

予定より幾分遅れたものの無事ホテルに着く。九州最後の夜である。皆、眼をこじ開けておしゃべりに熱中。高校クイズ選手権を見たい人も多かったに違いない。

阿蘇草千里

阿蘇中岳噴火口

熊本城・天守閣

島原武家屋敷

平成新山で火砕流で立ち枯れた山林

旧グラバー邸

平和公園・平和記念像

